



町産木材を活用した 『船迫こどもセンター』がオープン

「児童館」「子育て支援センター」「子育てボランティア団体などの活動拠点」の3つの機能を併せ持つ児童福祉施設「船迫こどもセンター」が完成し、7月15日(火)に、開所式が行われました。施設を見学した船岡地区の永井いづみさんは「木のぬくもりを感じ、天井が高くとても開放感があり、まるで自然の中にいるようです」と笑顔で話されました。(写真：子育て育児サークル「チェリーサークル」のみなさん)

全国に誇れる 魅力ある まちづくり



柴田町長 滝口 茂

これまでの 3期12年間

「柴田町を元気にしたい」「住んで良かったと言える柴田町をつくりたい」との思いで、この12年間全力で走り続けてきました。町政を運営するにあたっては、「決して「威張らず」「おごらず」、権力者のイメージを持たれないよう心がけてきました。また、政策を立案するにあたっては、常に現場に足を運び、自分の目で確かめ、多くの皆さんの生の声を町政に反映させてきたつもりです。

今回、4期目のスタートという節目にあたり、改めて、これまでの町政運営を振り返ってみますと、さまざまな問題に直面したことが思い出されます。平成14年の就任早々、財政危機に直面し、それを回避するために行った、県下で最も痛みを伴った行財政改革。二度にわたる市町村合併か、それとも自立戦略かの路線論争。そして、東日本大震

喫緊の課題解決

このように、鳥の目で見ると順調な柴田町ですが、虫の目で見るとそう安心してもらえない状況が生まれています。それは、少子高齢化社会や人口減少社会の進展が、私たちの生活にじわりと陰を落とすようになってきているからです。

- (1) 一人暮らし二人暮らしの世帯が増え、この先一人ぼっちになるのではないかとといった不安や心配。
- (2) もっと働く場所を作ってほしい。仙台市のような元気で賑わいのあるまちにしてほしいという要望。
- (3) 子どもを預ける場所が足りないという不満。
- (4) 大規模な災害や事件事故が起きないかという心配。このような新たな問題や住民からのさまざまな要望が出されてきています。

東日本大震災後は、アパート、家屋、事業所などの新築が相次ぎ、町に勢いが生まれています。さらに、財政も少しずつ好転し、多くの予算を学校施設の整備や子育て支援策の拡充といった、未来を担う子どもたちのために振り向けることが出来るようになりました。

こうした次々に発生する問題や要望に対応しながら、柴田町をもう一段上の発展ステージに乗せていくのが、4期目に課せられた私の使

命ではないかと思っております。

まず、取り組まなければならぬのが、日々直面している政策課題の解決です。特に水害対策は、すぐに対応しなければなりません。現在、西住地区において、約65億円をかけた鷺沼排水路の本格的な工事に着手しております。また、船岡西地区や船岡南地区などでは、局地的な冠水対策などを進めています。今後は、槻木市街地の抜本的な水害対策に全力を挙げて参ります。

二つには、待機児童の解消など、子育て支援策のさらなる充実です。今年度は、ゆとり保育を拡充し、槻木保育所の増築にかかる実施設計を予算化しておりますので、今後早急に整備を行って参ります。また、民間の保育事業への支援を強化し、待機児童の解消に努めて参ります。

三つには、お年寄りの健康づくりや介護支援サービスの充実と、居場所づくりです。

今年4月から始まった健康づくりポイント事業への参加者が1,800人を超えるなど、この事業への関心が高まっていますので、さらに盛り上げて参ります。また、新たな介護サービスのとして、地域密着型の特別養護老人ホームやサービス付高齢者向け住宅の誘致を行っていくとともに、お年寄りの居場所づくりとして、空店舗を活用したいいわゆる「コミュニティカフェ」などの整備に、努めて参ります。

こうした喫緊の課題に道筋をつけながらも、一方で、将来の町の発展を見据えた布石を打つことも、町長の大きな仕事ではないかと思っております。

柴田町の成長戦略

今後、急激な人口減少時代の到来が予測される中で、間違いない町政運営を進めていくためには、20年、30年先を先読みしたまちづくりが求められます。

未来に向けた柴田町の成

長戦略は、都市の魅力を高め、働く場所の確保や子育て支援策を充実し、若い人たちに「住んでもらえる町」、「選んでもらえる町」にすることです。

そのためには、都市の標準装備と言われている、総合体育館や本格的な図書館の建設など施設整備を急ぐ必要があります。整備にあたっては、財政計画をしっかりと立て、必要な財源を確保し、身の丈にあった建設を行って参ります。柴田町が「住みやすく、暮らしやすい、魅力あるまち」として、若い人たちに受け入れられるようなまちに成長していけば、若年女性の人口が半減すると言われている2040年問題は乗り切れると思っております。

二つには「花のまち柴田」をモットーに進めている、観光まちづくりのさらなる推進です。今年の桜まつりにおいては、過去最高の24万8千人の人数となりました。特に驚いたのは、中国、台湾、香港、タイ、そして

夢と希望を抱くことができる舞台

最後に、4期目のスタートにあたっては、改めて、自分が生まれ育ったふる里柴田町を「全国に誇れる魅力あふれる町にしたい」との理想の旗をさらに高く掲げながらも、一方で、私の政治信条である、現場に足を運び、地元の人々の声を聞きながら、次々と発生する課題を一つ一つ現実的に解決していきたいと考えております。

「初心の志」を忘れることなく、「誠実な政治」「信頼される政治」「実行力のある政治」を自ら率先して実践して参ります。

今後とも、美しい景観に磨きをかけながら、柴田町に行かなければ食べることができない新鮮な農産物や伝統料理、先人たちが残した歴史や文化を活かした観光まちづくりを進め、多くの人をこの町に呼び込んで参ります。

多くの住民の皆さまが柴田町に住むことで、豊かな生活が実感できるよう、さらに、未来に夢と希望を抱き、人生を前向きに生きられるような舞台を町民の皆さまとともに築いて参りますので、今後の4年間にとぞよろしくお願い申し上げます。

ホウノキ 船迫朴木の里 (アジサイ園) 編



あたり一面にあじさいが咲き誇ります。



木の階段を登ります。



アジサイのトンネルをくぐります。



青、紫、白色のアジサイがお出迎えます。

1周 約800m
所要時間 約20分



里山の入り口。
アジサイが里山一面に広がります。

6月下旬、船迫朴木地区の町道を車で走っていると、ある山の一面が青く覆われていることに気づきます。そこは高橋邦夫さんの里山です。青く見えたのは、約1700株ものアジサイ。先月、「第1回しばた紫陽花まつり」が船岡城址公園で開催されましたが、アジサイ好きの方は、高橋さんの里山も見応えがあると言います。

この里山は、高橋さんのご厚意により常時公開され、多くの方がアジサイ観賞にいられます。里山には遊歩道が整備され、アジサイを見ながら散歩ができます。

紫陽花を植える きっかけ

高橋さんは、元町職員で、今から約13年前、船岡城址公園に、500から600株のアジサイを植栽する事業に携わりました。もともと花が好きだった高橋さんは、自分の山にも植えたい

みなさんの協力を得て

という気持ちになりアジサイを植え始めました。アジサイを育てていくうちに、自分だけが花に癒されるのではなく、他の方々にも楽しんでもらいたいという思いが芽生え、毎年100から200株を新たに植えています。

毎年アジサイが増え、花が咲き終わったあとの花摘みの苦労も花の数だけ増えていきます。高橋さんはご夫妻で、毎年約3ヶ月間かけて、朝晩コツコツ花摘みを行ってきました。大変な作業でしたが、数年前から訪れるようになったウオーキングサークルの方々が、高橋さんの花摘みの苦労を知り、ボランティアで花摘みを手伝っています。おかげで、今まで3ヶ月かかっていた作業は、たった1日で終えられるようになりました。高橋さんの里山は、ボランティアの方々をはじめ、近隣の方々、友人、親戚などの暖かい支援により、年々美しさが増えています。



花のまちイメージキャラクター
はなみちゃん

ちょこっと、しばたび。

アジサイの里山を歩いてみて



はると 大槻信也さん・遥人君親子

こんな近くに、アジサイの里山があることを初めて知りました。アジサイに囲まれた細道やトンネルを通り抜け、木の階段を登り降りし、まるで冒険しているようで、とても興奮しました。この自然豊かな里山にまた来たいです。



山頂からの眺望



山頂の細道



小鳥の家を見つけました。

里山をひと歩きした後は、あずま屋で休憩。



里山の主 高橋 邦夫さん(65)

憩いの場として

高橋さんは、県外で行われるアジサイまつりの会場へ足を運び、アジサイや他の花についても学んでいます。最近では、アジサイの他に、花が長期間楽しめるブルーサルビアやフロックス

スなどを植え、アジサイと調和した新たな景観を作り出す工夫をしています。この里山が、船岡城址公園のアジサイを見に来た方の第二スポット的な場所となるように、これからも花を植え続け、みなさんに楽しんでもらいたい。そして、桃源郷のような憩いの場を目指したい」と夢を追い続けます。秋には、約6万株の彼岸花がこの里山に咲きそろいます。赤色に覆われる里山も憩いの場になります。



無農薬のブルーベリー



健康情報クリップ

なるほど!

みんなの健康ライフ シリーズ14

図 健康推進課 TEL 55-2160
FAX 55-4172

第14回目のテーマは、「食中毒予防」です。

夏は高温多湿で、食中毒菌にとって絶好の環境です。食中毒は、外食などで発生するものと思いませんか。実際は家庭でも発生しており、免疫力の弱い乳幼児や高齢者は、症状が重症化することがあります。食中毒予防の3原則は、菌やウイルスを「つけない・ふやさない・やっつける」ことです。正しい知識を持ち、家庭での食中毒予防をはじめましょう。

身近に潜む食中毒に注意しよう

【台所に潜む食中毒の危険】

食中毒の原因となる菌は、主に食品に付着しています。きれい見えている台所でも、スポンジやふきん、まな板、シンクなどは、菌が付着しやすく増えやすい場所と言われています。食品を触った手をよく洗うことも大切です。



引用：政府広報オンライン

【夏に発生しやすい菌の種類】

- <腸管出血性大腸菌> 例) O-157 など
(感染源) 牛肉、水など
(特徴) 強い感染力と毒性を持ち、少量の菌でも発症する。
(症状) 激しい腹痛と下痢、血便、発熱
- <腸炎ピブリオ>
(感染源) 魚介類
(特徴) 海水に多く潜む。
短時間で菌が増殖する。
(症状) 激しい腹痛と下痢、発熱

食中毒予防のポイント

調理

- 調理器具やスポンジ、ふきんを定期的に熱湯消毒し、乾燥させる。
- 食品は中心部までしっかり加熱する。(中心部 85℃で1分以上)
- 食べきれぬ量だけ購入し、調理する。

食事

- 温かい料理は温かいうちに、冷たい料理は冷たいうちに食べる。
- 料理は、常温で2時間以上放置しない。

保存

- 冷蔵庫の温度設定は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下にする。
- 冷蔵庫に保存する量は、全体の7割くらいにする。
- 冷蔵庫のドアは、すばやく開閉し、開ける回数を減らす。



栄養士からのアドバイス

おう吐や下痢は、食中毒の原因となる物質を排除しようとする体の防御反応です。自己判断で薬を服用することなく、早めに医師の診察を受けましょう。

広 告

2014 町民スポーツ大会

(宮城ヘルシー大会 柴田町予選会)



6/15
(日)

第11回町民バドミントン大会

会場：船岡体育館 (参加者48人)

ダブルス 1部

優勝：大宮 司・佐藤 有哉
準優勝：氏家 大輔・阿部 貴弘
第3位：菊地 学・松本 哲也

ダブルス 2部

優勝：加茂 絢佳・関 夏美
準優勝：佐藤 風香・佐藤 香純
第3位：大沼 勝則・石川 司樹

ダブルス 3部

優勝：笠 博子・長田 香織
準優勝：高橋 悟・藤井 彩
第3位：今野 武・小林 廉彦

ダブルス 4部

優勝：升澤 正孝・跡部かおり
準優勝：岡部 英明・加藤 雄
第3位：大坪ひろみ・佐藤亜希子



1位：中曽根スポーツ愛好会
2位：N.S.G 愛好会
3位：チーム西住
4位：ホープズ

6/22
(日)

第52回町民ビニールボール大会

会場：船岡体育館 (参加者66人)



6/18
(水)

第34回 町民ゲートボール大会

会場：総合運動場 多目的グラウンド (参加者53人)



団体戦

優勝：新寿会
準優勝：船迫寿会
第3位：柴田さくら会A
明青会

第39回町民ラージボール卓球大会

会場：船岡体育館 (参加者55人)



男子シングルス 1部

優勝：大沼 宏之
準優勝：鈴木 好

第3位：阿部 清吉
半沢 吉充

男子シングルス 2部

優勝：三浦 貞男
準優勝：青木 宏

第3位：柴崎 文雄
本木 寛

女子シングルス

優勝：及川 洋子
準優勝：佐藤 佳子

第3位：田中八重子
佐々木政子

混合ダブルス

優勝：千葉 盛・佐々木政子
準優勝：宮沢 則夫・鈴木いく子

第3位：中村 勝彦・倉繁ふみ子
大沼 宏之・飯淵すみ子

6/29
(日)

まちかど NEWS



アジサイに囲まれた散策路



アジサイのお祭りとしては、県南初。
(6月27日の開花式)

新たな観光資源

NEWS

くす玉のようなアジサイ

初夏の新たな花のイベント「第1回しばた紫陽花まつり」が6月27日(金)から7月13日(日)まで、船岡城址公園で開催され、約12,000人が来場しました。船岡地区の佐藤禮子さんは、「アジサイを植え始めた頃にも来ましたが、今ではたくさん花が増え、色鮮やかですごく良かったです」と話されました。

約13年前から町民による植栽が続く船岡城址公園のアジサイは、現在1,600株に増え、新たな町の観光資源として生かされ始めました。

親子で楽しく

NEWS

柴田町の花で手軽にガーデニング体験

7月6日(日)、四日市場の齋藤園芸で、みやぎ仙南農協柴田地区青年部・女性部の主催による「お花の寄せ植え体験」が行われ、親子など17人が参加しました。

ほうき草、ベゴニア、日々草などを鉢に植えている2人のお子さんの姿を見て、母親の高橋美幸さんは、「子どもたちが幼稚園の時から農協の食育活動などに参加しています。子どもたちの成長を実感しています。」と笑顔を浮かべていました。



夏を代表するサルビアや日々草などの配置を考え、センス良く仕上げました。

広 告

神秘的な蛍光を追い求め、 夜を楽しみました

6月20日(金)、21日(土)に、柴田町観光物産協会の主催による「上川名ホタル」鑑賞と「富沢磨崖仏群」ツアーが初めて開催され、町内外から45人が参加しました。富上分校や富沢磨崖仏群を見学後、農村レス・トラン縄文の幸で食事をとり、ホタルを観賞しました。今年ホタルが少なく心配でしたが、午後8時になると、川沿いのあちこちで美しく光り始め、歓声が上がりました。槻木地区の横田菜奈さんは「きれいすぎてびっくり、あんなに多くのホタルを見られるとは思いませんでした」と満足気でした。



上川名地区の平間さんから、ホタルの生態などの説明を聞く参加者

熱戦が繰り広げられました ～カブトムシ相撲大会～

木の枝を土俵に見立て、2匹のカブトムシが枝の先端までのぼる早さを競う「カブトムシ相撲大会」が、7月15日(火)柴田小学校で行われました。「森と親しみ、自然とふれあう」ことを目的として、柴田ロータリークラブが、カブトムシ300匹を用意しました。全校児童61人が、一人ひとりお気に入りのカブトムシを手にとり、相撲勝負に臨みました。6年生の三浦愛美さんは「カブトムシを初めて触ったので、最初は怖かったけど、だんだん慣れてきました。」と楽しんでいました。



カブトムシに大きな声援を送る子どもたち

出荷の最盛期

「柴田の輪菊(りんぎく)」

町の特産品の輪菊を栽培する農家では、お盆を前に出荷作業が最盛期を迎えています。輪菊栽培を始めて15年になる成田地区の大宮健さんは「菊栽培は、天候に左右されやすく、とても気を使いますが、親戚の手伝いをもらいながら、丹精込めて栽培しています」と話します。

花が長持ちすると好評の「柴田の輪菊」は、県内有数の出荷量を誇り、東京をはじめ全国へ出荷されています。



選別や梱包の作業も丁寧に行われます。(昨年は町全体で約150万本を出荷)

広 告

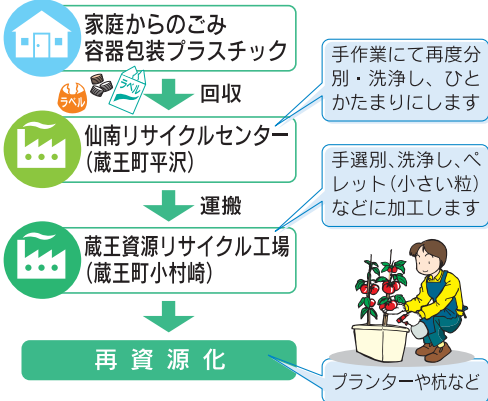
広 告

しばたecoライフ情報

②

～環境にやさしいまちを目指して～

容器包装プラスチックの再資源化までの流れ



第2回目のテーマは、「容器包装プラスチック」です。家庭から出るごみの約60%（容積比）が、レジ袋、シャンプー、洗剤などの「包装」や「容器」に使われたものです。正しくしっかり分別し、再資源化に協力しましょう。

第29A行政区のみなさんが、仙南リサイクルセンターを見学しました。



◀容器包装プラスチックの分別作業場を見学するみなさん



▲再生品ガーデニング用「キューブブロック」の説明を聞くみなさん

施設見学学習に参加した高橋康尋^{やすひろ}さんは「ごみを出すのは簡単だが、しっかり分別されておらず、リサイクルセンターで再度分別している苦勞をみなさんにも知ってほしいです」と感想を話されました。

こうほう 文芸

短歌

妻伏して何年振りの洗濯か
臯月の空に翻ぐエプロン
西船迫 三澤 精一

愛猫去りて悲しみ家族孫が言ふ
里親探しは「ちようど良いちゃん」
本船迫 森田 眞六

何げなく白百合に触れその瞬間
声がかきこえるそんな気がして
船岡 沢田 順子

山路ゆけばかごさの水に
しほで立ち流るる夏の沢は涼しく
葦神 菫

夏草にたわむる影が愛しく
おきざりの鈴君のいた場所
なほみ

青き田に真向かふ窓を全開し
まみどりの風むかえ入れたり
船岡東 柄目けい子

川柳

初物のキュウリを取って夏を知る
船岡 阿部美代子

ごみの日はカラス上から品定め
船岡 伊藤タイ子

W杯勝負見ていて我忘れ
西船迫 安ヶ平良三

なつかしい友の笑顔でホットする
梶木 つきのき町子

風がおる新緑まぶしいこちよき
梶木 加藤 利通

うすずみの手紙の向こうに友の顔
西船迫 渡辺 晴奈

雨風に耐えて苔むす磨崖仏
上名生 西村 久子

予報なき地震に肝をつぶされる
船岡 阿部トクエ

セクハラの尻尾はついに掴まれた
船岡 佐藤 益子

グウチョコキパー素手のリハビリ根気よく
船岡 鈴木 智子

掴んだら離さぬ国の地図づくり
船岡 島貫よし雄

天気予報でてる坊主に聞いて見る
船岡 萩原 善助

豪い雨せめて被災地さけてくれ
四日市場 曳地 真翔

溜息とあくびが多くなる二人
四日市場 郷土 山櫻

俳句

揺れながら風かがやかす稲の花
梶木 永井 亮

著我咲いて微笑み返す朱唇仏
下名生 笠松ふみ子

ひっそりと一日限りの沙羅の花
西船迫 玉手みき子

またたびの真白き花の香る道
西船迫 安ヶ平奈津枝

暑き日々鈴りん音色涼を呼ぶ
船岡 安藤 節子

梅雨線待つてあの傘開きます
大槻 信吉

野良猫とグラス三個の夕端居
中野西範子

額の花夜は星屑さそう色
石垣テル子

大きな字で大きな願ひ星祭
制野 千秋

潮風を殊に好みて籠枕
遊佐 徹

コーヒータム猫がじゃれつく春足かな
山家美智子

雲に乗り北の大地へ夏の旅
三塚 直樹

雨止んでよりの愁いや杜若
及川美沙子

被災地の海鮮井や雲の峰
藤原 悟子

七夕や鏡に立ちてははを見る
若月ノリ子

麦焼きの煤にまみれし母のこと
大久保和子

指先に蜜をとめて母を待つ
佐藤きみこ

朝採りの茄子にササギに舌鼓
船岡 千舞

広 告

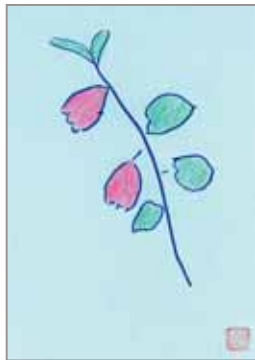
広 告



夢空間 2014



女王の番犬 (ペンネーム)



はなちゃん (ペンネーム)

smile kids

お子さん(4歳まで)の写真をお待ちしています。写真の裏にお子さんの名前を必ず書いてください。投稿者の住所、氏名、電話番号、お子さんの名前・生年月日を明記し、「ひとこと」を添えて応募してください。

ふれあいマイタウンは、町民の皆さんからの応募・紹介でつくるコーナーです。俳句・川柳・短歌に興味がある(こほう文芸)、とてもすてきな方なので紹介したい(人間もよう)、自己表現コーナー(夢空間2014)、お子さんの成長の写真やかわいい孫の写真を載せたいという方(町内にお住まいの4歳以下のお子さん)、はがき、手紙などで8月8日(金)まで応募ください。 ※お名前や作品の読み方を記載してください。

■連絡先/まちづくり政策課 ☎54-2111

こども美術館



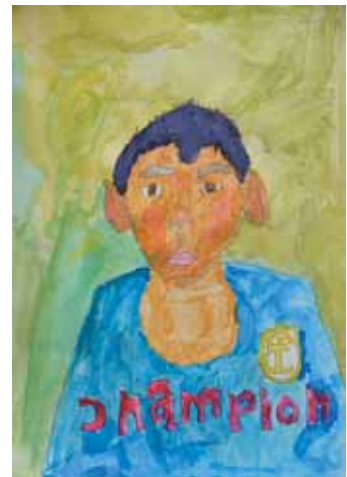
「楽しく使おう(ペン立て)」

西住小学校3年
ししどとうしろう
宍戸 闘志郎さん



「世界でたった一人のぼく」

西住小学校4年
たかはし
高橋 意智さん



広 告

広 告

広 告

町内で働く若い世代の方の思いや夢などを紹介するコーナーです。



船泊こどもセンター新築工事現場で、分電盤の動作確認をする笠松さん。

笠松電気株式会社
工事課長

笠松 丈資さん(35)
かさまつ たけし

建物の照明、コンセントなど一般的な電気設備から太陽光発電設備、火災報知設備など専門的な電気設備まで幅広く設計や施工、工事管理を行う笠松電気株式会社の笠松丈資さんを紹介します。

工事課長の笠松さんは、福島県で7年間修行してきました。今では、この経験を生かして、建物を使う人を常に意識し、建物の完成をイメージしながら施工図を仕上げているそうです。

笠松さんは、「電気設備の工事は、建物内部の配線や配管などの作業なので、他社の建築工事担当者と工程について綿密に調整する事を心掛けています。社内では、工期に追われる事が多く大変ですが、作業を率先して行い、部長や職人さんと共に工夫しながら仕事をしています」とチームワークで業務をこなすことに余念がありません。

工事施工後、社長による社内検査があります。笠松さんの父である社長は、現場管理や施工の経験が豊富で、検査ではいつも厳しく指導されるそうです。「厳しい分、勉強になります。技術や考え方を受け継いでいき、電気設備の品質を高めていきます。そして、『任せて安心』と言われる技術

者として、がんばりたい」と笠松さんは抱負を語りました。社長から仕事を教わる笠松さんも、3人のお子さんをもち「心身の健康づくりと礼儀作法を学ぶため、子供たちに空手を習わせています。自分も空手をしてきたので、子供と対戦するのが楽しみ」と笑みをこぼしていました。

笠松電気株式会社



柴田町船岡東4丁目6番18号
TEL 54-2333

昭和40年創業、社員8名。民間事業所や公共建築物など、一般の人がより多く利用する建物の電気設備の設計、施工、管理を手がけています。

人口と世帯数
(平成26年7月1日現在)



38,539人
(前月比9人増)



19,164人
(前月比3人増)



19,375人
(前月比6人増)



15,199世帯
(前月比9世帯増)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。